

令和5年度 幼児教育研修（年齢別担任研修0歳児・第1回）

「子どもの発達と保育者の関わりについて」

日時：令和5年6月21日（水）15:00～17:00

会場：足立区生涯学習センター

講師：彰栄保育福祉専門学校 専任講師 山梨 有子 氏



## 0歳児（乳児）の発達について



発達（育ち）の時期の特徴はあくまでも**目安**であり、育ちには、**道筋（順序性）**があります。

○目の前にいる子どもたちの発達を捉えると道筋がわかる。

○養育者は、子どもの発達過程を先回りしないよう心掛ける。

### 4か月頃まで

感覚を通して外界を認知する

- 周囲の人や物をじっと見つめる
- 声や音のする方に顔を向ける

### 4か月頃

基本的信頼感が育つ



- 表情や体の動きで、自分の欲求を表現する
- 心の結びつきや絆が生まれる

### 6か月頃

愛着関係が強まる



- 特定の人に愛着を抱く
- 見知らぬ人に人見知りをする

### 9か月頃

言葉によるコミュニケーションの芽生えが見られる

- 自分の意思や欲求を指さしや身振りで伝えようとする

## 愛着について

- 愛着は、人間関係の基礎である。『自分がかげがえのない存在だ』と子どもが感じられる関わりをする
- 周囲の人に、温かく応答的に関わってもらうことで、自尊心を抱ける環境をつくる

## 喃語について

- 喃語は、コミュニケーションの芽生えてあり、心の発達や言葉の獲得には欠かせない
- 喃語を発したら、大人は必ず応答し、受け止めていく

保育とは

養護

教育

「安心だね」「やってみたいな」を保障すること

『養護』とは、子ども一人一人を理解し、**生命の保障（安全と安心）**を保障するために、保育者等が行う**援助や関わり**のこと。

『教育』とは、子どもが自らやってみようとすることを保育者等が**支える**行為のこと。



# 発達理解のための 3つの視点

養護

と

教育

は一体的



乳児は援助をする場面が多く、『教育』部分がないと思われがち!?

身体的な発達(身体感覚、運動等)

健やかに伸び伸びと育つ『自分』

社会的な発達(人との関わり、信頼感等)

身近な人と気持ちが通じ合う『ひと』

精神的な発達(興味・関心、探索等)

身近なものに関わり感性が育つ『もの』

○乳児も「**学ぼうとしている**」という認識をもち、援助する。

○肌に触れることは、担当保育者が行うようにしていく。**家庭的な雰囲気**で緩やかな**担当制保育**を進める。

○**保護者と共に**保育する視点を忘れずに家庭との連携、子育て支援を行う。

○快適な環境の中で、様々な活動を通し、子どもの**やりたいことを保障**する。



## クラス担任間の連携



子どもに「抱っこ〜!」と求められて抱っこをしていると、周りの保育者たちは他の子どもたちの対応に動き回っている。このまま抱っこを続けてあげたいけど、その対応はダメなのかしら?

職員間の連携とは、頼んだり、頼まれたりする関係。依頼→信頼→聊頼(りょうらい)

担任間の連携を図り、「子どもに与えられた私だけの時間」と思う心のゆとりをもつ。

## 家庭との連携(保護者支援)



保護者からの困りごとを相談されたとき、すぐに答えを伝えようとしていませんか?

保護者が本当に求めているものを理解していますか?

保護者対応ではなく、保護者支援をする気持ちを大切にす。

保護者の困りごとがダイレクトに子どもに影響する。答えを出すのではなく一緒に考える。

## 研修生の報告書より

愛着関係を築くことがなぜ大切なのかということより深く知ることができた。日常生活の中で何気なくしている保育の意味を改めて考え、自分を見つめ直すよい機会となった。

保護者と共に保育をしているという視点を忘れないことが大切であると学んだ。保護者に対して子どものよいところ(ポジティブな情報)を伝え、信頼関係を深めたい。